



七小だより

平成30年 4月6日
国立市立国立第七小学校
校長 大山 紀子
NO. 1 4月号

新しい出会いに胸ふくらませて— どうぞよろしくお願いたします

校長 大山 紀子

初めて国立市に勤務することになった5年前の出勤時に、バスの中にまで桜の花びらが舞い込むことに驚き、胸を躍らせた私も、今では気分は国立市民。歩道橋に鈴なりになってカメラを構える人たちに、「大学通りもよいけれど、さくら通りも見事ですよ」などと、声をかけたくなる季節が巡ってきました。

はじめまして。このたび、森田 弘文校長の後任として国立市立国立第五小学校から着任いたしました大山 紀子と申します。どうぞよろしくお願いたします。

きらきらと瞳を輝かせた1年生53名を迎え、入学・進級の喜びに胸躍る全校児童361名とともに新しい平成30年度の教育活動をスタートさせることができ、教職員一同、本当に嬉しく思っております。改めまして、お子さんのご入学・ご進級を心よりお祝い申し上げます。

実は4月2日に、森田前校長先生から、学区域を案内していただきました。その際、私は七小の学区域がとてもバラエティに富んでいるのに本当にびっくりしました。富士見台団地を抜けていくと駅前の開けたロータリーが見え、賑やかな商店街もあります。(フクロウカフェや猫のいる休憩室も見つけました！動物好きの私としてはとても興味をそそられます)かと思うと、国立のルーツである谷保の、当時を彷彿とさせる家構えが並ぶ甲州街道を多くの車が走り、それを超えて更に歩みを進めるとまた景色は変わり、「はけ」に出て竹藪を降りていくことができます。

建設中の道は、やがて東八道路とつながるのだとか。反対を眺めれば、インターチェンジの入り口も望めます。そのまま視線を西に移せば、谷保天満宮のこんもりした森が目に入ります。この多様性は、市内小学校随一なのではないかと思いました。

さて、今「多様性」という言葉を使いましたが、この「多様性＝ダイバーシティ」は、これから子供たちが生きていく社会の重要なキーワードです。

性別、国籍、価値観、文化、年齢・・・それらが異なる人々がお互いを尊重し合い、「違い」を排斥することなく受け入れて、良さを認め合う力が必須であるこれからの社会を、七小の子供たちはしなやかにたくましく生きていくことができるのではないかと感じたのです。

歴史ある地域と、新しく開発された地域。豊かな自然と、現代文明の象徴のような高速道路。それらを当たり前に受け入れて成長する子供たちは、寛大な心を持ち、柔軟な考え方ができる、まさに「生きる力」をもった子供たちなのではないかと思うのです。さらに、地域を案内していただきながら感じたことは、本当にたくさんの方が子供たちに愛情を注いでくださっているのだ、ということです。着任のご挨拶に伺った先々で、そのことがよく分かり、七小の子供たちは幸せだなあと心から思いました。

3日、八重桜の木の下で、七小の職員がみんなで昼食を持ち寄り、食事会をしました。その際にギター伴奏による愛唱歌と校歌を聴かせてもらったのですが、こんなアットホームな心温まる出発の会は初めてでした。すでにチームワークは盤石です！この、チーム七小で、子供たちをしっかりと慈しみ、育てていきます。ぜひ、ご家庭、そして地域の皆さまのご理解、ご協力をどうぞよろしくお願いたします。

